

川島功前代表、急逝の経緯

8月11日(日)午前8時半、浦向道の丸太橋架け替えのため20名が行仙宿補給路登山口に集結。

沖崎代表から、今回の新しい橋を制作して下さった植平修氏と、上北山村地域おこし協力隊の真下修平君の紹介と、本日の作業となった経緯、作業の手順・段取りの説明があり、最後に安全第一の心構えで臨んでほしい旨のお話の後、第一回目の荷揚げを始めた。5mの長さの鋼材橋げたをモノレールに積み込む。

モノレールの荷台は3mほどなので、約2mが後ろに飛び出した状態だ。途中のカーブで引つかかりはしないか？ 急こう配で下にずり落ちないか？ 荷物を見張るため、前方に瀧本氏、後方に川島氏を乗せて登りだす。

「(モノレールを) 無人で降ろすから、次の荷物を積んで上がってきてくれ」これが川島氏の最後の言葉になった。午前8時40分だった。

駐機小屋を過ぎたあたりで、最後部の川島さんがモノレールから外側に倒れているのを歩いて登っていたメンバーが発見、大声で知らせてモノレールは停止した。

荷物の隙間に左足が引っかかり、上体は荷台の外に仰向けの状態で、頭が下になり両手は力なく頭と同じ方向に下がっていた。

瀧本氏が担ぎ上げて斜面に横たえ、救命講習を受けていた植平、岩本、真下の3名が心臓マッサージと人工呼吸を行った。

モノレールから降ろした場所が斜面だったので、登山道の平坦なところまで運び上げて、3名が交代で救命処置を続けた。



登山口で作業の説明



一回目の荷揚げ



二回目の荷揚げに備えて登山口に5人が残っていたが、しばらくすると上から大きな声が聞こえた。何を言っているのかは分からなかったが、つきり荷物が引っ掛かったと思っていた。そのうち降りてきた一名が「川島さんがえらいことや！意識がない」と伝えてくれた。



救急隊到着



現場へ向かう



搬送中



登山口に到着



R425の分岐で



池峰、池の平公園

材を持って現場へと登って行った。10時41分だった。

下で待っている間は、モノレールの事故かとも思っていたが、何人かが降りてきて、断片的な情報で、出血は無く、頭にも大きな傷は無い。四肢も正常で骨折があるようには見えないことが判ってきた。現場を見に行った沖崎さんが戻ってきて、救急搬送の必要があるの

で、電話が通じるところまで降りることになった。沖崎さんが降りて行った直後に、AEDを持ってきてくれと言う要請があり、奥村、竹中の2名がAEDを探しに行った。

AEDは下北山村役場でお借りし、10時過ぎに到着、患者に装着するが「現在の症状はAEDが必要ありません。心臓マッサージと人工呼吸を続けてください」とアナウンスが流れたのでAEDを作動させることは無かった。

10時半を過ぎたところにサイレンの音が聞こえだし、10時38分に消防車一台と村の救急車、寺垣内駐在所署員が到着した。

消防車の隊員3名と駐在所署員は搬送用のボートやザイル等の機

川島さんが搬送されてくるまでに上空をヘリコプターが2機通過した。一機目は白っぽい機体で、かなり離れた場所を通過、2機目は青色にオレンジのラインで県警のヘリのような見た目。このヘリは現場上空を低高度で通過していった。後で聞いたところ、県警のヘリには患者を収納する設備がない、とのことだった。

11時13分、ボートに乗せられた川島さんは林道迄降ろされ、救急車に収容された。

降ろす際、つづら折れの登山道は斜面をショートカットする形で、直線的に吊り降ろされた。途中、2分おきに心臓マッサージが続けられた。

この時点で搬送先が不明だったので、梶野車に橋本さん同乗で救急車のあとを追う。

R425に出たところで4台の消防車両が停車していた。その中の一台には「山岳警備隊」のヘルメットをかぶった隊員が乗り組んでいた。ここで搬送先が県立医大病院の救急救命センターと判明、池峰のグラウンドからヘリで運ぶことが判った。



ドクターヘリ着陸

ヘリに収容

離陸

11時54分、池峰に到着。しばらくするとヘリの音が聞こえてきて、12時丁度にドクターヘリが池峰のグラウンドに着陸した。

救急車がヘリ横約20mに移動し、医師、看護師が救急車に乗り込むのが見えた。ヘリのエンジンは停止しているので、女性看護師が話す声が聞こえてくるが、遠いので話している内容は判らなかつた。ヘリに移すまでの時間が長いので、救急隊員に聞くと「開胸して直接心臓マッサージをするための処置をしている。ご家族は県立医大病院に来てほしい」との答えがあつた。

この時点ですでに心停止していることがうかがえた。

12時16分、川島さんに乗せたドクターヘリは離陸した。

すぐに登山口に戻る。途中のR425で、下つてきた沖崎車と出会った。役場駐車場での再集合を伝えられる。登山口に到着、出発寸前だったメンバーから荷物を受け取り役場まで引き返した。

役場駐車場から川島さんの家族に電話するが応答がなく、沖崎さんが迎えに行くことになった。梶野、瀧本、植平の3名が病院へ向かった。

午後3時40分病院前まで来たときに、沖崎さんから電話があり、死亡が確認されたことが判った。

救急救命センターの受付で、ドクターヘリで運ばれた川島の関係者だというのが、はっきりした返事がない。既に死亡したと聞いているという、「判りました、今日ドクターヘリで運ばれたのは2名で、死亡されたのは1名です。ただ、お名前が不詳となっております」という答えだった。

「ご遺体は処置室で警察が検死中です。警察がお話をお伺いしたいとのことですので、ここでお待ちください」と言われ、待っていると植平さんが到着。4時過ぎに沖崎さんから電話があり「遺体を吉野警察に運ぶので、病院ではなく吉野警察署に来てほしいと連絡があつた」と聞かされ、吉野警察の場所を伝えた。この後瀧本さんが到着し、警察官と簡単な話の後、梶野、瀧本の2名が吉野警察に向かうこととした。病院を出たところで真下君とばったり出会う。わざわざ病院まで来てくれていた。これから吉野警察署まで行くが、一緒に行くか？と聞いてみたら「はい、行きます」と言うので後ろを付いてきてもらう。R169の北行きは行楽帰りの車で岡寺付近

まで渋滞気味、南行きはそれほどでもないが、普段よりも通行量が多い。

午後5時過ぎに吉野警察署着、少し遅れて瀧本さんも到着し、3人で署内に入る。署内では取調室で刑事課の警察官から事情聴取を受ける。沖崎さんから電話あり「杉の湯まで来た。車多くまだ時間がかかる」ご家族を乗せた沖崎車は午後7時過ぎに吉野警察署に到着。ご家族はご遺体と対面、沖崎さんは事情聴取に加わる。

一時間半ほど事情聴取が続き、最後に作成された調書が読み上げられて事情聴取は終わった。

午後9時15分、それぞれが吉野警察署を後にした。

翌々日の8月13日に警察の解剖が行われたが、解剖所見で死因は不明となっていた。

現在の吉野警察署は大淀町にあり、以前は中吉野警察署と言う名称だった。吉野警察署は吉野神宮駅の近所にあったが、こちらは現在「さくら警察庁舎」と言う名前になっている。十津川警察署も現在は十津川警察庁舎に変更されている。

(記；梶野)